

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の設置								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジンツクバダイガク 国立大学法人筑波大学								
フリガナ大学の名称	ツクバダイガク 筑波大学 (University of Tsukuba)								
大学本部の位置	茨城県つくば市天王台一丁目1番1								
大学の目的	<p>筑波大学は、基礎及び応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的とする。</p> <p>従来の大学は、ややもすれば狭い専門領域に閉じこもり、教育・研究の両面にわたって停滞し、固定化を招き、現実の社会からも遊離しがちであった。本学は、この点を反省し、あらゆる意味において、国内的にも国際的にも開かれた大学であることをその基本的性格とする。</p> <p>そのために本学は、変動する現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、かつ、多様性と柔軟性を持った新しい教育・研究の機能及び運営の組織を開発する。更に、これらの諸活動を実施する責任ある管理体制を確立する。</p>								
新設学部等の目的	データサイエンスを基軸とし、自然科学、人文社会科学の考え方、技術を広く環境・社会問題等に適用し、デザイン思考を踏まえつつ創造的に地球規模課題解決に貢献する人材を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	学際サイエンス・デザイン専門学群 計	年 4	人 40	年次人 —	人 160	学士(学術) [Bachelor of Arts and Science]	年月 令和6年9月 第1年次	Wisma R&D, Universiti Malaya, Jalan Pantai Baharu, 59990 Kuala Lumpur, Malaysia	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	学際サイエンス・デザイン専門学群	講義	演習	実験・実習	計	126単位			
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
新設分	学際サイエンス・デザイン専門学群		人 8 (8)	人 4 (4)	人 0 (0)	人 2 (2)	人 14 (14)	人 0 (0)	人 20 (20)
	計		8 (8)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	— —
既	人文・文化学群 人文学類		19 (19)	18 (18)	1 (1)	14 (14)	52 (52)	0 (0)	36 (36)
	比較文化学類		22 (22)	18 (18)	1 (1)	4 (4)	45 (45)	0 (0)	15 (15)
	日本語・日本文化学類		4 (4)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	14 (14)	0 (0)	12 (12)
	社会・国際学群 社会学類		12 (12)	9 (9)	3 (3)	6 (6)	30 (30)	0 (0)	19 (19)
国際総合学類		10 (10)	17 (17)	0 (0)	6 (6)	33 (33)	0 (0)	3 (3)	

組 織 の 概 要	人間学群							
	教育学類	10 (10)	10 (10)	0 (0)	9 (9)	29 (29)	0 (0)	28 (28)
	心理学類	12 (12)	8 (8)	0 (0)	11 (11)	31 (31)	0 (0)	2 (2)
	障害科学類	12 (12)	11 (11)	3 (3)	7 (7)	33 (33)	0 (0)	4 (4)
	生命環境学群							
	生物学類	21 (21)	17 (17)	3 (3)	32 (32)	73 (73)	0 (0)	61 (61)
	生物資源学類	31 (31)	37 (37)	5 (5)	25 (25)	98 (98)	0 (0)	13 (13)
	地球学類	13 (13)	14 (14)	1 (1)	14 (14)	42 (42)	0 (0)	20 (20)
	理工学群							
	数学類	11 (11)	13 (13)	4 (4)	7 (7)	35 (35)	0 (0)	0 (0)
	物理学類	19 (19)	19 (19)	8 (8)	25 (25)	71 (71)	0 (0)	6 (6)
	化学類	10 (10)	11 (11)	2 (2)	14 (14)	37 (37)	0 (0)	21 (21)
	応用理工学類	27 (27)	28 (28)	8 (8)	19 (19)	82 (82)	0 (0)	2 (2)
	工学システム学類	28 (28)	24 (24)	0 (0)	25 (25)	77 (77)	0 (0)	4 (4)
	社会工学類	16 (16)	17 (17)	1 (1)	10 (10)	44 (44)	0 (0)	1 (1)
	情報学群							
	情報科学類	15 (15)	22 (22)	2 (2)	20 (20)	59 (59)	0 (0)	26 (26)
	情報メディア創成学類	11 (11)	13 (13)	2 (2)	5 (5)	31 (31)	0 (0)	17 (17)
	知識情報・図書館学類	14 (14)	14 (14)	4 (4)	11 (11)	43 (43)	0 (0)	7 (7)
	医学群							
医学類	55 (55)	44 (44)	77 (77)	12 (12)	188 (188)	0 (0)	29 (29)	
看護学類	7 (7)	5 (5)	0 (0)	8 (8)	20 (20)	0 (0)	37 (37)	
医療科学類	9 (9)	6 (6)	3 (3)	9 (9)	27 (27)	0 (0)	67 (67)	
体育専門学群	37 (37)	38 (38)	2 (2)	43 (43)	120 (120)	0 (0)	8 (8)	
芸術専門学群	18 (18)	18 (18)	0 (0)	17 (17)	53 (53)	0 (0)	13 (13)	
計	443 (443)	438 (438)	130 (130)	356 (356)	1,367 (1,367)	0 (0)	—	
合計	451 (451)	442 (442)	130 (130)	358 (358)	1,381 (1,381)	0 (0)	—	
教員以外の職員 の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	人		人		人		
	技 術 職 員	人		人		人		
	図 書 館 専 門 職 員	人		人		人		
	そ の 他 の 職 員	人		人		人		
計	人		人		人			
	700 (700)	438 (438)	1,138 (1,138)	599 (599)	1,037 (1,037)	1,636 (1,636)	51 (51)	
	51 (51)	1 (1)	52 (52)	5 (5)	15 (15)	20 (20)	1,355 (1,355)	
	5 (5)	15 (15)	20 (20)	1,491 (1,491)	2,846 (2,846)			
	1,355 (1,355)	1,491 (1,491)	2,846 (2,846)					

大学全体
※マレーシアに派遣
予定の事務職員を含
む(別添「新設学群
に係る補足資料」の
とおり)

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 ※マラヤ大学からの 借用による専用分、 同大学との共用分を 含む。(借用分につ いては別添「新設学 群に係る補足資料」 のとおり)			
	校 舎 敷 地	1,373,254 m ²	3,650 m ²	0 m ²	1,376,904 m ²				
	運 動 場 用 地	344,887 m ²	18,965 m ²	0 m ²	363,852 m ²				
	小 計	1,718,141 m ²	22,615 m ²	0 m ²	1,740,756 m ²				
	そ の 他	798,039 m ²	6,667 m ²	0 m ²	804,706 m ²				
合 計	2,516,180 m ²	29,282 m ²	0 m ²	2,545,462 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	<借用面積> ・校地：専用0m ² 、 共用29,282m ² ・校舎：専用5,072 m ² 、共用865m ² <契約期間> ・長期借用を前提に 当初3年間、以後更 新			
		484,410 m ² (484,410 m ²)	865 m ² (865 m ²)	0 m ² (0 m ²)	485,275 m ² (485,275 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	346 室	304 室	2,033 室	32 室 (補助職員 13人)	5 室 (補助職員 12人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		※バーテーション 等で空間を仕切り 使用するもの			
		学際サイエンス・デザイン専門学群		19 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標本	※図書、学術雑 誌、視聴覚資料 は、共用するマラ ヤ大学中央図書館 のもの。このほ か、筑波大学附属 図書館の電子ブッ ク3,527点を現地 から利用可能。	
		冊	種	種	点	点	点		
	学際サイエンス・デ ザイン専門学群	600,993 [600,582] (600,993 [600,582])	6,923 [6,908] (6,923 [6,908])	66,980 [66,980] (66,980 [66,980])	40,723 (40,723)	27 (0)	0 (0)		
	計	600,993 [600,582] (600,993 [600,582])	6,923 [6,908] (6,923 [6,908])	66,980 [66,980] (66,980 [66,980])	40,723 (40,723)	27 (0)	0 (0)		
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 ※マラヤ大学との共 用分を含む(別添 「新設学群に係る補 足資料」のとおり)		
	47,411 m ²		3,564 席		3,227,715 冊				
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	23,349 m ²		テニスコート、ハンドボール場、ラグビー場、サッカー場、陸上競技場等						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等	—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等	—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		該当なし							
大 学 の 名 称 筑波大学									
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 充足率	開設 年度	所 在 地
人文・文化学群		年	人	年次 人	人		倍		茨城県つくば市天王台1-1-1
人文学類		4	120	—	480	学士 (人文学)	1.03	平成19年度	
比較文化学類		4	80	—	320	学士 (比較文化)	1.03	平成19年度	
日本語・日本文学類		4	40	—	160	学士 (文学) (日本語教育)	1.01	平成19年度	
社会・国際学群									茨城県つくば市天王台1-1-1
社会学類		4	80	3年次10	340	学士 (社会学) (法学) (政治学) (経済学) (国際社会科学)	1.03	平成19年度	
国際総合学類		4	80	—	320	学士 (国際関係学) (国際開発学) (国際社会科学)	1.03	平成19年度	

ビジネス科学研究群 (M)	2	63	—	126	(国際公共政策) (国際日本研究) 修士 (法学) (経営学)	1.06	令和2	東京都文京区大塚3-29-1
ビジネス科学研究群 (D)	3	21	—	63	博士 (法学) (経営学)	0.90	令和2	東京都文京区大塚3-29-1
法曹専攻 (P)	3	36	—	108	法務博士 (専門職)	0.95	令和2	東京都文京区大塚3-29-1
国際経営プロフェッショナル専攻 (P)	2	30	—	60	国際経営修士 (専門職)	1.15	令和2	東京都文京区大塚3-29-1
理工情報生命学術院								
数理物質科学研究群 (M)	2	276	—	552	修士 (理学) (工学)	1.04	令和2	茨城県つくば市天王台1-1-1
数理物質科学研究群 (D)	3	88	—	264	博士 (理学) (工学)	0.70	令和2	
システム情報工学研究群 (M)	2	431	—	862	修士 (社会工学) (工学) (サービス工学) (生物情報学)	1.24	令和2	
システム情報工学研究群 (D)	3	94	—	282	博士 (社会工学) (工学) (生物情報学)	1.07	令和2	
	5	8	—	24	修士 (人間情報学) 博士 (人間情報学)	0.87		
生命地球科学研究群 (M)	2	311	—	622	修士 (理学) (農学) (環境科学) (山岳科学) (食料革新学) (環境制御学) (生物工学)	1.09	令和2	
生命地球科学研究群 (D)	3	118	—	354	博士 (理学) (農学) (生命農学) (生物工学) (環境学) (食料革新学) (環境制御学)	0.79	令和2	
国際連携持続環境科学専攻 (M)	2	6	—	12	修士 (持続環境科学)	1.08	令和2	
人間総合科学学術院								
人間総合科学研究群 (M)	2	575	—	1,150	修士 (教育学) (心理学) (障害科学) (カウンセリング) (リハビリテーション科学) (神経科学) (看護科学) (医科学)	1.05	令和2	茨城県つくば市天王台1-1-1 東京都文京区大塚3-29-1

人間総合科学研究群 (D)		3	141	—	423	博士 (公衆衛生学) (体育学) (スポーツ科学) (スポーツウェルネス学) (芸術学) (デザイン学) (世界遺産学) (情報学) (病態機構学)	1.02	令和2	茨城県つくば市天王台1-1-1 東京都文京区大塚3-29-1	
		4	80	—	240	博士 (教育学) (心理学) (障害科学) (カウンセリング科学) (リハビリテーション科学) (神経科学) (看護科学) (ヒューマン・ケア科学) (公衆衛生学) (スポーツ医学) (体育科学) (コーチング学) (スポーツウェルネス学) (芸術学) (デザイン学) (世界遺産学) (情報学) (病態機構学) (医科学)	1.09			
		5	8	—	24	(医学)	0.91			
	スポーツ国際開発学共同専攻 (M)	2	5	—	10	修士 (スポーツ国際開発学)	1.10	令和2	茨城県つくば市天王台1-1-1	
	大学体育スポーツ高度化共同専攻 (D)	3	3	—	9	博士 (体育スポーツ学)	1.22	令和2	茨城県つくば市天王台1-1-1	
	国際連携食料健康科学専攻 (M)	2	9	—	18	修士 (食料健康科学)	1.55	令和2	茨城県つくば市天王台1-1-1	
	<学生募集を停止した組織>									
	人文社会科学部									
	哲学・思想専攻 (一貫制博士課程)	5	—	—	—	博士 (文学)	—	平成13	茨城県つくば市天王台1-1-1	令和2年より学生募集停止
	歴史・人類学専攻 (一貫制博士課程)	5	—	—	—	博士 (文学)	—	平成13		令和2年より学生募集停止
文芸・言語専攻 (一貫制博士課程)	5	—	—	—	博士 (文学) (言語学)	—	平成13		令和2年より学生募集停止	
現代語・現代文化専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (文学) (言語学) (学術)	—	平成20		令和2年より学生募集停止	
国際公共政策専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (政治学) (社会学) (国際政治経済学) (国際公共政策) (学術)	—	平成20		令和2年より学生募集停止	
国際地域研究専攻 (修士課程)	2	—	—	—	修士 (地域研究) (国際学) (公共政策)	—	平成27		令和2年より学生募集停止	

既設大学等の状況

国際日本研究専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	(経済学) (学術) 修士	—	平成27		令和2年より学生募集停止
国際日本研究専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	(人文科学) (社会科学) (国際日本研究) (日本語教育学) 博士	—	平成20		令和2年より学生募集停止
ビジネス科学研究科								東京都文京区大塚3-29-1	
経営システム科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (経営学) (経営システム科学)	—	平成13		令和2年より学生募集停止
企業法学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (法学)	—	平成13		令和2年より学生募集停止
企業科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (経営学) (システム・マネジメント)	—	平成13		令和2年より学生募集停止
法曹専攻 (専門職学位課程)	3	—	—	—	法務博士 (専門職)	—	平成17		令和2年より学生募集停止
国際経営プロフェッショナル専攻 (専門職学位課程)	2	—	—	—	国際経営修士 (専門職)	—	平成17		令和2年より学生募集停止
数理物質科学研究科								茨城県つくば市天王台1-1-1	
数学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (理学)	—	平成12		令和2年より学生募集停止
物理学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (理学)	—	平成12		令和2年より学生募集停止
物理学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (理学)	—	平成12		令和2年より学生募集停止
化学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (理学)	—	平成12		令和2年より学生募集停止
ナノサイエンス・ナノテクノロジー専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (理学) (工学)	—	平成24		令和2年より学生募集停止
電子・物理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (工学)	—	平成12		令和2年より学生募集停止
電子・物理工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (工学)	—	平成12		令和2年より学生募集停止
物性・分子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (工学)	—	平成12		令和2年より学生募集停止
物性・分子工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (工学)	—	平成12		令和2年より学生募集停止
物質・材料工学専攻 (後期3年の課程のみの博士課程)	3	—	—	—	博士 (工学)	—	平成16		令和2年より学生募集停止
システム情報工学研究科								茨城県つくば市天王台1-1-1	
社会工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (社会工学) (サービス工学)	—	平成26		令和2年より学生募集停止
社会工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (社会工学)	—	平成26		令和2年より学生募集停止
社会システム・マネジメント専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (社会経済) (社会工学) (マネジメント) (工学)	—	平成12		令和2年より学生募集停止

リスク工学専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (社会工学) (工学)	-	平成13	令和2年より学生募集停止
コンピュータサイエンス専攻 (博士前期課程)	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成12	令和2年より学生募集停止
コンピュータサイエンス専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (工学)	-	平成12	令和2年より学生募集停止
知能機能システム専攻 (博士前期課程)	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成12	令和2年より学生募集停止
知能機能システム専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (工学)	-	平成12	令和2年より学生募集停止
構造エネルギー工学専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (工学)	-	平成12	令和2年より学生募集停止
生命環境科学研究科								茨城県つくば市天王台1-1-1
地球科学専攻 (博士前期課程)	2	-	-	-	修士 (理学) (地球科学)	-	平成19	令和2年より学生募集停止
生物科学専攻 (博士前期課程)	2	-	-	-	修士 (理学)	-	平成17	令和2年より学生募集停止
地球環境科学専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (理学) (地球環境科学)	-	平成19	令和2年より学生募集停止
地球進化科学専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (理学) (地球科学)	-	平成19	令和2年より学生募集停止
生物科学専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (理学) (生物科学) (学術)	-	平成23	令和2年より学生募集停止
環境バイオマス共生学専攻 (一貫制博士課程)	5	-	-	-	博士 (学術)	-	平成24	令和2年より学生募集停止
国際地縁技術開発科学専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (農学) (生物資源工学) (学術)	-	平成17	令和2年より学生募集停止
生物圏資源科学専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (農学) (学術)	-	平成17	令和2年より学生募集停止
生物機能科学専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (農学) (生物工学) (学術)	-	平成17	令和2年より学生募集停止
生命産業科学専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (生物科学) (農学) (生物工学) (学術)	-	平成17	令和2年より学生募集停止
持続環境学専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (環境学)	-	平成19	令和2年より学生募集停止
先端農業技術科学専攻 (後期3年の課程のみの博士課程)	3	-	-	-	博士 (農学)	-	平成17	令和2年より学生募集停止
人間総合科学研究科								茨城県つくば市天王台1-1-1
教育基礎学専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (教育学)	-	平成20	令和2年より学生募集停止
学校教育学専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (教育学) (学術)	-	平成20	令和2年より学生募集停止
心理学専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (心理学) (学術)	-	平成20	令和2年より学生募集停止

障害科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (障害科学)	—	平成20		令和2年より学生募集停止
生涯発達専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (カウンセリング) (リハビリテーション)	—	平成20	(東京都文京区大塚3-29-1)	令和2年より学生募集停止
生涯発達科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (生涯発達科学) (カウンセリング科学) (リハビリテーション科学)	—	平成20	(東京都文京区大塚3-29-1)	令和2年より学生募集停止
ヒューマン・ケア科学専攻 (後期3年の課程のみの博士課程)	3	—	—	—	博士 (教育学) (心理学) (ヒューマン・ケア科学) (体育科学) (公衆衛生学) (学術)	—	平成20		令和2年より学生募集停止
感性認知脳科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (感性科学) (行動科学) (神経科学) (学術)	—	平成20		令和2年より学生募集停止
スポーツ医学専攻 (後期3年の課程のみの博士課程)	3	—	—	—	博士 (スポーツ医学) (学術)	—	平成20		令和2年より学生募集停止
生命システム医学専攻 (医学を履修する博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学) (学術)	—	平成20		令和2年より学生募集停止
疾患制御医学専攻 (医学を履修する博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学) (学術)	—	平成20		令和2年より学生募集停止
看護科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (看護科学)	—	平成21		令和2年より学生募集停止
体育学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (体育学) (コーチング学) (スポーツ・リハビリ学)	—	平成20		令和2年より学生募集停止
体育科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (体育科学) (健康スポーツ科学) (学術)	—	平成20		令和2年より学生募集停止
コーチング学専攻 (後期3年の課程のみの博士課程)	3	—	—	—	博士 (コーチング学) (体育スポーツ学) (学術)	—	平成18		令和2年より学生募集停止
芸術専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (芸術学) (デザイン学)	—	平成19		令和2年より学生募集停止
芸術専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (芸術学) (デザイン学)	—	平成19		令和2年より学生募集停止
世界文化遺産学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (世界遺産学) (学術)	—	平成18		令和2年より学生募集停止
大学体育スポーツ高度化共同専攻 (後期3年の課程のみの博士課程)	3	—	—	—	博士 (体育スポーツ学)	—	平成28		令和2年より学生募集停止
図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (図書館情報学) (情報学)	—	平成15	茨城県つくば市春日1-2	令和2年より学生募集停止

図書館情報メディア専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士 (図書館情報学) (情報学) (学術)	-	平成15		令和2年より学生募集停止
<p>附属施設の概要</p>	<p><先端研究センター群></p> <p>名称：国際統合睡眠医科学研究機構 目的：睡眠覚醒機構を解明し睡眠を制御する戦略の開発並びに睡眠障害及び関連する疾患の制御を通して人類の健康増進に貢献する研究 所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1 設置年月：平成24年12月 規模等：延床面積 7,989㎡</p> <p>名称：計算科学研究センター 目的：科学の諸領域における超高速シミュレーション、大規模データ解析等を中心とする研究、超高速計算システム及び超高速ネットワーク技術の開発並びに情報技術の革新的な応用方法の研究 所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1 設置年月：平成16年4月 規模等：延床面積 5,242㎡</p> <p>名称：生存ダイナミクス研究センター 目的：生物の持つ環境変化へのダイナミックな応答機能を「生物の生存戦略」と捉えた新しい生命動態科学の領域を切り拓く研究 所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1 設置年月：平成30年4月 規模等：延床面積 6,546㎡</p> <p>名称：つくば機能植物イノベーション研究センター 目的：食料・生物資源の安定的な確保に向けた植物バイオテクノロジーと遺伝資源保全利用を基調とした基盤的遺伝子研究から生産・流通を見据えた応用的研究並びに研究成果を活用したイノベーションの創出支援と教育への展開 所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1 設置年月：平成29年4月 規模等：延床面積 5,404 ㎡</p> <p>名称：下田臨海実験センター 目的：海洋及びその沿岸に生息する生物の発生学、生理生化学、生態学等並びに海洋学、海洋環境等に関連する生命科学及び地球科学（地理地学）の研究及び教育 所在地：静岡県下田市5-10-1 設置年月：昭和51年4月 規模等：延床面積 3,083.1㎡</p> <p>名称：プラズマ研究センター 目的：プラズマ物理学及びその応用に関する研究教育（特に電位・電場によるプラズマ閉じ込めの向上及びプラズマの高性能化に係る研究教育）並びに関連機器の開発等 所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1 設置年月：昭和54年4月 規模等：延床面積 6,402㎡</p> <p>名称：地中海・北アフリカ研究センター 目的：地中海・北アフリカにおける新時代志向型の戦略的学際研究の推進 所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1 設置年月：平成30年4月 規模等：延床面積 630㎡</p>								

名称	サイバニクス研究センター
目的	人間の身体機能を支援・増幅・拡張する人支援技術によるイノベーションの創出と新産業創出
所在地	茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月	平成23年10月
規模等	延床面積 3,210㎡
名称	アイソトープ環境動態研究センター
目的	放射性同位元素、核燃料物質及びエックス線発生装置等の学内管理・安全教育、並びにこれらを用いた基礎、環境移行及び環境動態予測に係る調査・研究・開発
所在地	茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月	平成24年12月
規模等	延床面積 5,113㎡
名称	人工知能科学センター
目的	AI 及びビッグデータ解析技術を集結し、実用に繋がる基盤技術開発拠点の構築
所在地	茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月	平成29年4月
規模等	延床面積 158㎡
名称	微生物サステイナビリティ研究センター
目的	持続可能な社会の構築に向けた次世代の微生物制御と微生物利用に関わる新たな学問分野を切り拓く基礎及び応用研究
所在地	茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月	平成30年10月
規模等	延床面積48㎡
名称	ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター
目的	人間の統合的な身体活動能力を多角的に研究並びに最適パフォーマンスを引き出す科学的手法の開発・社会実装
所在地	茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月	平成27年7月
規模等	延床面積 39㎡
名称	陽子線医学利用研究センター
目的	医学及び関連分野の研究、教育の場としての機能並びに機器の改善・開発を行うことによるがん診療における陽子線療法の有効性の確立
所在地	茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月	平成12年4月
規模等	延床面積 5,278㎡
名称	西アジア文明研究センター
目的	古代西アジア文明諸相とその後代への影響に関する学際研究及び西アジアの文化財の保全に関する研究とその社会実装
所在地	茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月	令和3年4月
規模等	延床面積 58㎡
名称	宇宙史研究センター
目的	時空の発祥から物質の起源、宇宙の進化及び生命の起源までの宇宙史の統括的解明
所在地	茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月	平成29年10月
規模等	延床面積 404㎡
名称	エネルギー物質科学研究センター
目的	エネルギーの高効率的利用、貯蔵、変換及び制御に関わる新規物質や材料の創製のための基盤的及び応用的研究
所在地	茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月	平成29年10月
規模等	延床面積1,144㎡

名称：山岳科学センター
目的：菅平高原実験所、八ヶ岳演習林、川上演習林、井川演習林、筑波実験林等を活用した生物科学、農林学、地球科学、環境科学等山岳科学に関する教育研究
所在地：長野県上田市菅平高原1278-294/長野県南佐久郡南牧村野辺山462-4/静岡県静岡市葵区井川1621-2/茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月：平成29年4月
規模等：延床面積4,978㎡

名称：トランスポーター医学研究センター
目的：統合医科学研究部門、基礎研究部門及び生命科学動物資源センター等を活用した医科学の研究拠点と研究分野の創生
所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月：平成29年4月
規模等：延床面積300㎡

<研究支援センター群>

名称：研究基盤総合センター
目的：実験研究基盤設備の管理運用による研究及び教育の支援並びにこれらの設備による広域学際研究
所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月：平成16年4月
規模等：延床面積 6,841㎡

名称：学術情報メディアセンター
目的：実験研究基盤設備の管理運用による研究及び教育の支援並びにこれらの設備による広域学際研究
所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月：平成16年4月
規模等：延床面積 5,202㎡

<教育等センター群>

名称：グローバルコミュニケーション教育センター
目的：学生に対する外国語教育及び外国人留学生等に対する日本語教育等
所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月：平成27年4月
規模等：延床面積 4,985㎡

名称：体育センター
目的：学生の体育指導（専門の体育指導を除く。）、社会体育の実施指導及びスポーツ指導者の養成
所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月：昭和48年10月
規模等：延床面積 131,952㎡（各種体育施設を含む）

名称：アドミッションセンター
目的：アドミッションセンター入試等の実施、国内外における学生募集に係る広報活動の実施及び教育目標に適合した入学者の選抜方法等の調査研究
所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月：平成11年4月
規模等：延床面積 157.62㎡

名称：保健管理センター
目的：学生及び職員の健康管理等
所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月：昭和48年10月
規模等：延床面積 1,189㎡

<上記以外の施設>

名称：附属図書館
目的：地域社会及び国内外の研究・教育機関と連携し、学術情報の中枢的拠点として機能する。
所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月：昭和48年10月
規模等：延床面積 47,411㎡

名称：附属病院
目的：医科学の教育及び研究に係る診療の場として機能するとともに、診療を通して医療の進展に寄与する。
所在地：茨城県つくば市天王台1-1-1
設置年月：昭和51年10月
規模等：延床面積 84,248㎡

名称：附属小学校
目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的研究を行う。
所在地：東京都文京区大塚3-29-1
設置年月：昭和53年4月
規模等：学校土地面積 47,072㎡

名称：附属中学校
目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的研究を行う。
所在地：東京都文京区大塚1-9-1
設置年月：昭和53年4月
規模等：学校土地面積 51,793㎡(附属高等学校との合算)

名称：附属駒場中学校
目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的研究を行う。
所在地：東京都世田谷区池尻4-7-1
設置年月：昭和53年4月
規模等：学校土地面積 34,905㎡(附属駒場高等学校との合算)

名称：附属高等学校
目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的研究を行う。
所在地：東京都文京区大塚1-9-1
設置年月：昭和53年4月
規模等：学校土地面積 51,793㎡(附属中学校との合算)

名称：附属駒場高等学校
目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的研究を行う。
所在地：東京都世田谷区池尻4-7-1
設置年月：昭和53年4月
規模等：学校土地面積 34,905㎡(附属駒場中学校との合算)

名称：附属坂戸高等学校
目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的研究を行う。
所在地：埼玉県坂戸市千代田1-24-1
設置年月：昭和53年4月
規模等：学校土地面積 74,223㎡

名称：附属視覚特別支援学校
目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的研究を行う。
所在地：東京都文京区目白台3-27-6
設置年月：昭和53年4月
規模等：学校土地面積 12,658㎡

名称：附属聴覚特別支援学校
目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的を行う。
所在地：千葉県市川市国府台2-2-1
設置年月：昭和53年4月
規模等：学校土地面積 42,243㎡

名称：附属大塚特別支援学校
目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的を行う。
所在地：東京都文京区春日1-5-5
設置年月：昭和53年4月
規模等：学校土地面積 5,097㎡

名称：附属桐が丘特別支援学校
目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的を行う。
所在地：東京都板橋区小茂根2-1-12
設置年月：昭和53年4月
規模等：学校土地面積 16,701㎡

名称：附属久里浜特別支援学校
目的：幼児・児童又は生徒の教育に関する実際的を行う。
所在地：神奈川県横須賀市野比5-1-2
設置年月：平成16年4月
規模等：学校土地面積 15,521㎡

名称：理療科教員養成施設
目的：盲学校の理療の教科を担当する教員等を養成する。
所在地：東京都文京区大塚3-29-1
設置年月：昭和53年4月
規模等：延床面積 857㎡

基本計画（新設学群に係る補足資料）						
教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	
	事 務 職 員		6 (6)	4 (4)	10 (10)	
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	図 書 館 専 門 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	計		6 (6)	4 (4)	10 (10)	
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	
	校 舎 敷 地	0 m ²	3,650 m ²	0 m ²	3,650 m ²	
	運 動 場 用 地	0 m ²	18,965 m ²	0 m ²	18,965 m ²	
	小 計	0 m ²	22,615 m ²	0 m ²	22,615 m ²	
	そ の 他	0 m ²	6,667 m ²	0 m ²	6,667 m ²	
	合 計	0 m ²	29,282 m ²	0 m ²	29,282 m ²	
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		
	4,990 m ² (4,990 m ²)	865 m ² (865 m ²)	0 m ² (0 m ²)	5,855 m ² (5,855 m ²)		
	【校舎内訳】 【専用】WISMA R&Dの7フロア 4,911m ² 、隣接するマラヤ大学メインキャンパスの実験室 79m ² 【共用】WISMA R&Dのエントランス 115m ² 、隣接するマラヤ大学メインキャンパスのHealth Clinic 750m ²					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	10 室	10 室	2 室	2 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)	
図書館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		
	17,370 m ²	1,317 席		600,993 冊		
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				
	584 m ²	陸上競技場、サッカー場、フットサルコート、テニスコート等				

上記に含めるもののほか、以下の施設をマラヤ大学と共用する。いずれも本専門学群が主に使用するWISMA R&Dの敷地内にあり、共用の校舎敷地面積に含んでいる。

- ・ 祈祷室 (161m²)
- ・ 食堂 (356m²)
- ・ トレーニングジム (80m²)

※マラヤ大学との合意書については、「設置の趣旨等を記載した書類」の資料19として添付している。

国立大学法人筑波大学 意見伺いに関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
筑波大学				筑波大学				
人文・文化学群				人文・文化学群				
人文学類	120	-	480	人文学類	120	-	480	
比較文化学類	80	-	320	比較文化学類	80	-	320	
日本語・日本文学類	40	-	160	日本語・日本文学類	40	-	160	
社会・国際学群				社会・国際学群				
社会学類	80	3年次 10	340	社会学類	80	3年次 10	340	
国際総合学類	80	-	320	国際総合学類	80	-	320	
人間学群				人間学群				
教育学類	35	-	140	教育学類	35	-	140	
心理学類	50	-	200	心理学類	50	-	200	
障害科学類	35	-	140	障害科学類	35	-	140	
生命環境学群				生命環境学群				
生物学類	80	-	320	生物学類	80	-	320	
生物資源学類	120	3年次 10	500	生物資源学類	120	3年次 10	500	
地球学類	50	-	200	地球学類	50	-	200	
理工学群				理工学群				
数学類	40	-	160	数学類	40	-	160	
物理学類	60	-	240	物理学類	60	-	240	
化学類	50	-	200	化学類	50	-	200	
応用理工学類	120	3年次 10	500	応用理工学類	120	3年次 10	500	
工学システム学類	130	-	520	工学システム学類	130	-	520	
社会工学類	120	-	480	社会工学類	120	-	480	
情報学群				情報学群				
情報科学類	80	3年次 10	340	情報科学類	80	3年次 10	340	
情報メディア創成学類	50	3年次 10	220	情報メディア創成学類	50	3年次 10	220	
知識情報・図書館学類	100	3年次 10	420	知識情報・図書館学類	100	3年次 10	420	
医学群				医学群				
医学類	134	2年次 5	649	医学類	98	2年次 5	613	定員変更(△36) ※1
看護学類	70	3年次 10	300	看護学類	70	3年次 10	300	
医療科学類	37	3年次 3	154	医療科学類	37	3年次 3	154	
体育専門学群	240	-	960	体育専門学群	240	-	960	
芸術専門学群	100	-	400	芸術専門学群	100	-	400	
				学際サイエンス・デザイン専門学群	40	-	160	学部の新設 (意見伺い)
		2年次 5				2年次 5		
計	2,101	3年次 73	8,663	計	2,105	3年次 73	8,787	
筑波大学大学院				筑波大学大学院				
人文社会ビジネス科学学術院				人文社会ビジネス科学学術院				
人文社会科学研究群 (M)	139	-	278	人文社会科学研究群 (M)	139	-	278	
人文社会科学研究群 (D)	66	-	198	人文社会科学研究群 (D)	66	-	198	
ビジネス科学研究群 (M)	63	-	126	ビジネス科学研究群 (M)	63	-	126	
ビジネス科学研究群 (D)	21	-	63	ビジネス科学研究群 (D)	21	-	63	
法曹専攻 (P)	36	-	108	法曹専攻 (P)	36	-	108	
国際経営プロフェッショナル専攻 (P)	30	-	60	国際経営プロフェッショナル専攻 (P)	30	-	60	
理工情報生命学術院				理工情報生命学術院				
数理物質科学研究群 (M)	276	-	552	数理物質科学研究群 (M)	276	-	552	
数理物質科学研究群 (D)	88	-	264	数理物質科学研究群 (D)	88	-	264	
システム情報工学研究群 (M)	431	-	862	システム情報工学研究群 (M)	431	-	862	
システム情報工学研究群 (D)	102	-	322	システム情報工学研究群 (D)	102	-	322	
生命地球科学研究群 (M)	311	-	622	生命地球科学研究群 (M)	311	-	622	
生命地球科学研究群 (D)	118	-	354	生命地球科学研究群 (D)	118	-	354	
国際連携持続環境科学専攻 (M)	6	-	12	国際連携持続環境科学専攻 (M)	6	-	12	
人間総合科学学術院				人間総合科学学術院				
人間総合科学研究群 (M)	575	-	1,150	人間総合科学研究群 (M)	575	-	1,150	
人間総合科学研究群 (D)	229	-	783	人間総合科学研究群 (D)	229	-	783	
スポーツ国際開発学共同専攻 (M)	5	-	10	スポーツ国際開発学共同専攻 (M)	5	-	10	※2
	(8)	-	(16)		(8)	-	(16)	
大学体育スポーツ高度化共同専攻 (D)	3	-	9	大学体育スポーツ高度化共同専攻 (D)	3	-	9	※2
	(5)	-	(15)		(5)	-	(15)	
国際連携食料健康科学専攻 (M)	9	-	18	国際連携食料健康科学専攻 (M)	9	-	18	
計	2,508	-	5,791	計	2,508	-	5,791	

※1は、医学群医学類の地域枠に係る令和5年度限りの期間を付した入学定員36人増の変更によるものである。

※2は、大学院設置基準第31条第1項に基づく共同教育課程の専攻であって、その定員は本学に係るものである。なお、()内は当該共同教育課程全体の定員である。

教 育 課 程 等 の 概 要

（学際サイエンス・デザイン専門学群）

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	総合科目 ファーストイヤーセミナー 学問への誘い 社会と職業	1前	1				○		8	4		2		共同	
		1前	1				○		8	4		2		共同	
		1後	1				○		2					共同	
		—	3				—		8	4	0	2	0		
	体育	基礎体育	1通	1					○	1			1		オムニバス
		応用体育	2通	1					○	1					兼2 オムニバス 共同(一部) 集中(一部)
		—	2				—		1	0	0	1	0	兼2	
	外国語	研究日本語基礎I-A-1	1前		2			○			1				兼1 共同
		研究日本語基礎I-A-2	1前		2			○			1				兼1 共同
		研究日本語基礎I-B	1前	2				○			1				兼1 共同
		研究日本語基礎II-A-1	1後		2			○			1				兼1 共同
		研究日本語基礎II-A-2	1後		2			○			1				兼1 共同
		研究日本語基礎II-B	1後	2				○			1				兼1 共同
		—	—	4	8			—		0	1	0	0	0	兼3
	情報	情報リテラシー（講義）	1前	1				○		2	2				共同
		情報リテラシー（演習）	1前	1					○	2	2				共同
		データサイエンス	1後	2					○	2	2				共同
		—	—	4				—		2	2	0	0	0	
	関連科目	Philosophy and Current Issues	2・3・4前	2				○							兼2 共同・集中
		Appreciation of Ethics and Civilisations	2・3・4後		2			○							兼2 共同・集中
Malay Language Communication II		2・3・4前		2				○						兼2 共同・集中	
National Language A		2・3・4後		2				○						兼2 共同・集中	
—		—	2	6			—		0	0	0	0	0	兼2	
基礎科目計(18科目)		—	15	14			—		8	4	0	2	0	兼5	
専門基礎科目	統計学基礎	1前	3				○		2	2				共同	
	実践統計	1後	3				○		2	2				共同	
	日本語と学問I	2前	3					○		1				兼2 共同	
	日本語と学問II	2後	3					○		1				兼2 共同	
	自然科学基礎I	2前	4				○		5	2				兼3 オムニバス 共同	
	自然科学基礎II	2後	4				○		5	2				兼4 オムニバス 共同	
	人文社会科学基礎I	2前	4				○		1	1		1		兼2 オムニバス 共同(一部) ※演習	
	人文社会科学基礎II	2後	4				○		1	1		1		兼3 オムニバス 共同(一部) ※演習	
	データサイエンスのための線形代数	3前	2				○		2	2				共同 ※演習	
	データサイエンスのための解析学	3前	2				○		2	2				共同 ※演習	
データサイエンスのためのシステム理論	3後	2				○		2	2				共同 ※演習		

	専門基礎科目計(11科目)	—	34			—	7	4	0	2	0	兼15	
専門科目	日本文化と社会の理解I	2前	2			○	1			2			共同
	日本文化と社会の理解II	2後	2			○	1	1					共同
	日本文化コミュニケーションI	3前	3			○	1			1			共同 ※講義
	日本文化コミュニケーションII	3後	3			○		2					共同
	自然科学通論I	3前	4			○	5	2				兼7	オムニバス 共同
	自然科学通論II	3後	4			○	5	2				兼2	オムニバス 共同
	人文社会科学通論I	3前	4			○	1	1		1			オムニバス 共同(一部) ※講義
	人文社会科学通論II	3後	4			○	1			1		兼3	オムニバス 共同(一部) ※講義
小計(8科目)	—	26			—	8	4	0	2	0	兼10		
Problem Based Learning	時事課題論考演習I	1前	5			○	8	4		2			共同
	時事課題論考演習II	1後	6			○	8	4		2			共同
	時事課題解析演習I	2前	6			○	6	4		2		兼1	共同
	時事課題解析演習II	2後	6			○	6	3		2		兼3	共同
	時事課題解決法提案演習I	3前	6			○	8	4		2			共同
	時事課題解決法提案演習II	3後	6			○	8	4		2			共同
	卒業研究	4通	10			○	8	4		2			共同
	小計(7科目)	—	45			—	8	4	0	2	0	兼4	
専門科目計(15科目)	—	71			—	8	4	0	2	0	兼4		
合計(44科目)		—	120	14		—	8	4	0	2	0	兼20	
学位又は称号	学士(学術)		学位又は学科の分野			工学関係、農学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
(卒業要件) 1. 基礎科目 21単位 1) 総合科目 3単位(必修) 2) 情報 4単位(必修) 3) 体育 2単位(必修) 4) 外国語 8単位(必修4単位、選択必修4単位) 研究日本語基礎I-A及びII-Aについては、プレイスメントテストにより、履修するレベル別クラスを決定する。(I-A-1/II-A-1又はI-A-2/II-A-2) 5) MPU 4単位(必修2単位、選択必修2単位) ※条件により6単位 マレーシア高等教育省が定める必修科目。 マレーシア人学生、外国人学生の別により対象科目が異なる。 [共通対象科目] ・Philosophy and Current Issues (2単位) [マレーシア人学生対象科目] ・Appreciation of Ethics and Civilisations (2単位) ・National Language A (2単位) ※ ※中等教育修了時に受験する学力認定試験SPMにおいて、Bahasa Malayu (マレー語) に合格していない場合は履修が必要 [外国人学生対象科目] ・Malay Language Communication II (2単位) 2. 専門基礎科目 34単位(必修) 3. 専門科目 71単位(うちProblem Based Learning 45単位)(必修) 卒業要件: 126単位 (マレーシア人学生で、MPUのNational Language Aを履修する必要がある場合は128単位) (履修科目の登録上限) 履修科目の登録の上限を45単位とし、所定の単位を優れた成績をもって修得した場合は、55単位まで登録を認める。						1学年の学期区分				2期			
						1学期の授業期間				15週			
						1時限の授業時間				50分			

授 業 科 目 の 概 要			
(学際サイエンス・デザイン専門学群)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目 共通科目 総合科目	ファーストイヤーセミナー	本学で学修する上での「導入教育」であり、大学における学修を有意義なものとするために、 1) 大学での学修に関する基本的事項を理解するとともに、教員と学生及び学生間のコミュニケーションを深める 2) 充実した大学生活を送るための基礎知識や問題解決能力を身につける重要性を理解することを助ける 3) 自分の将来に向かうキャリアパスを描き、それに応じて大学において何をどのように学び、暮らすかを考えることを、本講義においてはねらう。	共同
	学問への誘い	本講義は、本学の学士課程教育への導入を担う。大学における学問の方法論へ誘（いざな）い、自らが主に専攻しようとする学問分野への理解や、関連する諸分野との関係性も理解できる能力を涵養する。導入講義では、大学入学までの学びと大学での学びの類似点や相違点を確認することなどを通じて、学問が、まずは自らの問いを発するところから始まり、その問いに対する答えを求めようとする営みであることを示す。その後、各学群・学類が主にカバーしている学問分野における問題解決アプローチを紹介する。本学で営まれている学問的研究の全貌を見渡すとともに、その中で受講生が主に専攻しようとする学問分野を俯瞰でき、さらに様々な視点からその分野を複眼的にみることでできる力を養う。	共同
	社会と職業	政府・企業・NPO/NGO等の豊富な実務経験を有する講師をゲストスピーカーとして招き、高等教育への社会的・職業的ニーズ・知識を提供するとともに、学生に社会の様々な問題とそれを解決するために必要な考え方、知識、技術を俯瞰的な視点から考えさせる。特に、地球規模課題と企業等団体との関連や、課題解決のためのデータサイエンスの活用についての情報を詳しく提供する。さらに、社会の各種ステークホルダーと学生とが討論する機会を設けることにより、社会が大学生に求める知識やスキルと、大学生が身につけたいと考える、あるいは大学が学生に身につけさせたいと考えるそれらとを突き合わせ、互いの考え方の一致点や齟齬を可視化し、環境・社会問題を解決するためにどのようなマインドセットが必要かを、考える機会を与える。	共同
体育	基礎体育	初級レベルの運動やスポーツ種目を通して、基本的な身体運動を学修し、習得した知識や運動技能を日常生活の中で活かせるようになり、生涯に渡って健康・体力を維持増進するための知識と実践力を養う。開講形態は通年開講とし、秋学期はラケット・スポーツ（初級レベル）を通して、基本的な用具や身体の使い方、規範遵守の意識、チームワークの重要性、スポーツを行うことの意義について学び、効果的に身体機能を高める方法を実習する。春学期はダンスにおける「知る・踊る・創る・見る・評価する」活動を中心に行い身体表現の楽しさに触れる。さらに身体能力だけでなく、創造性・表現性・社会性を育むことを目指す。 (オムニバス方式/全20回/科目責任者：② 工藤 重忠) ② 工藤 重忠/10回 身体運動の基本的な仕組みや他者との関わり方などをバドミントンを通して体験し、生涯スポーツへの導入を図る ⑬ 醍醐 笑部/10回 ダンスの基礎的知識と動きについて学習し、身体表現の楽しさに触れることで継続的な運動習慣につなげる	オムニバス方式
	応用体育	中級レベルのスポーツ種目や日本伝統の武道種目を通して、生涯にわたってスポーツを継続できる運動技能や文化としてのスポーツの価値を学修し、自らのスポーツライフの充実に活かせるようにする。秋学期は定時開講として、ラケット・スポーツ（中級レベル）に取り組み、巧みな用具と体の使い方、連携プレー、試合戦術などを実習する。春学期は集中授業として、柔道あるいは剣道種目に取り組み、それぞれの歴史・文化的背景、礼節、基本動作について学ぶ。 (オムニバス方式、一部共同、一部集中/全15回/科目責任者：2 工藤 重忠) ② 工藤 重忠/10回 テニスの基礎的知識と技術 (29 平岡 拓晃・22 鍋山 隆弘/5回) (共同) (集中) 柔道の基礎的知識と技、剣道の基礎的知識と技	オムニバス方式 共同（一部） 集中（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(学際サイエンス・デザイン専門学群)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語	研究日本語基礎I-A-1	大学の授業に必要な日本語の基礎的なトレーニングを行う。基本的な言語知識（文字、語彙、文法）を身につけると同時に、4技能（読む・聞く・書く・話す）を総合的に高めるための教室活動を行う。また、PCを利用しての日本語学習に慣れることで、ICT能力を伸ばすとともに、自律学習が可能な学習態度を養う。言語的な側面だけでなく、文化的な側面にも着目し、それらの知識を課題解決のためのコミュニケーション活動に活かすことができるようにする。	共同
	研究日本語基礎I-A-2	大学の授業に必要な日本語の発展的なトレーニングを行う。より高度な言語知識（文字、語彙、文法）を身につけると同時に、4技能（読む・聞く・書く・話す）を総合的に高めるための教室活動を行う。幅広い場面で用いられる読み物や会話を理解し、教室活動を通して、正確に、かつ多角的に説明できるようにする。また、コンピュータを利用して、背景知識についての参考文献等を自発的に収集し、グローバルな視点で議論ができるようにする。	共同
	研究日本語基礎I-B	大学の授業に必要な日本語の運用能力を高めるトレーニングを行うと同時に、自律学習が可能な学習態度を養う。日本語のICT活用能力を養成し、コンピュータを利用した日本語学習に慣れる。プロジェクト活動を通して、大学の授業に必要な読解力、聴解力、作文力、議論の方法等を総合的に学ぶ。設定したテーマについて、必要な情報を収集し、参考文献を読み、発表、議論ができるようにする。また、自分の経験や意見をまとめて、小レポートが作成できるようにする。	共同
	研究日本語基礎II-A-1	「研究日本語基礎I-A-1」に引き続き、大学の授業に必要な日本語の基礎的なトレーニングを行う。基本的な言語知識（文字、語彙、文法）を身につけると同時に、4技能（読む・聞く・書く・話す）を総合的に高めるための教室活動を行う。また、PCを利用した日本語学習に慣れることで、ICT能力を伸ばすとともに、自律学習が可能な学習態度を養う。言語的な側面だけでなく、文化的な側面にも着目し、それらの知識を課題解決のためのコミュニケーション活動に活かすことができるようにする。	共同
	研究日本語基礎II-A-2	「研究日本語基礎I-A-2」に引き続き、大学の授業に必要な日本語の発展的なトレーニングを行う。より高度な言語知識（文字、語彙、文法）を身につけると同時に、4技能（読む・聞く・書く・話す）を総合的に高めるための教室活動を行う。幅広い場面で用いられる読み物や会話を理解し、教室活動を通して、正確に、かつ多角的に説明できるようにする。また、コンピュータを利用して、背景知識についての参考文献等を自発的に収集し、グローバルな視点で議論ができるようにする。	共同
	研究日本語基礎II-B	「研究日本語基礎I-B」に引き続き、大学の授業に必要な日本語の運用能力を高めるトレーニングを行うと同時に、自律学習が可能な学習態度を養う。日本語のICT活用能力を養成し、コンピュータを利用した日本語学習に慣れる。プロジェクト活動を通して、大学の授業に必要な読解力、聴解力、作文力、議論の方法等を総合的に学ぶ。設定したテーマについて、必要な情報を収集し、参考文献を読み、発表、議論を行う。また、自分の経験や意見をまとめて、小レポートが作成できるようにする。	共同
情報	情報リテラシー（講義）	情報の基本概念と社会におけるコンピュータとインターネットの位置づけを理解した上で、コンピュータの原理と構成、ソフトウェアの原理、インターネットの仕組みなどについて学ぶ。コンピュータの歴史から始まり、Webやメールの仕組みを知ることで、現代社会におけるITの役割や、筑波大学における情報環境と注意を学ぶ。併せて、インターネットを安全かつ有意義に活用するために必要な情報倫理、情報セキュリティ、知的財産権に関する知識を学ぶ。	共同
	情報リテラシー（演習）	コンピュータを利用した基礎的な情報利用技術を身につける。メールの送り方、文書作成ソフトウェアを用いた文書の作成、図や表の作り方など基本的なレポートの作成方法、プレゼンテーション作成ソフトウェアを用いたプレゼンテーション作成を通じた情報表現の手法や、情報の受け手を意識した情報発信の手法を実践的に修得する。インターネットにおける情報倫理や情報セキュリティに配慮した情報収集、意見交換、情報発信などの問題点を学ぶ。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(学際サイエンス・デザイン専門学群)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	データサイエンス	データサイエンスの基礎的概念を理解し、コンピュータを利用した基礎的なデータ分析技術を学ぶ。種類やその再利用性を踏まえたデータの収集、ビッグデータを前提とした情報構造と表現の分離を踏まえたデータの管理、各種データの可視化手法を通じて、データの理解と活用を実践的に修得する。離散変数と量的変数の違いやそれぞれの統計、因果と相関や、時系列データとネットワークデータの分析手法を学ぶ。先端的なデータサイエンスの事例に触れ、社会におけるデータの具体的な活用について理解する。	共同
関連科目	Philosophy and Current Issues	人がいかに良く生きるかという根源的な課題に関し、哲学の基本的な考え方、既存の哲学的思考、歴史的課題と哲学の関係、マレーシアの歴史における哲学の役割、イスラム教と社会の関係等の観点から講義する。マレーシアの価値観、日本の価値観、さらに他地域・国の価値観を比較し、多様な価値観を哲学的に分析するとともに、今日の様々な課題を具体的に取り上げ、既存の哲学的考究により、どのように対応可能か、また人がより良く生きるために必要な哲学とは何かについて、考える力を身につける。	共同・集中
	Appreciation of Ethics and Civilisations	本授業は、マレーシアにおける倫理観のあり方、倫理観形成の歴史、伝統的価値観と多様性文化の関係、近代文明の発展と伝統的倫理感の均衡、欧米主導型文明とマレーシアにおける実装過程、政治的変遷と倫理感の変化、マレーシアの通史と倫理観形成史の関係、民族多様性と倫理観の醸成について、講義、基礎文献の購読、討論を行う。多様な民族が共存するマレーシアにおいて、国全体で統一した倫理観を形成することが可能か、倫理観と文明の発展は両立するか、持続可能な発展と倫理観の堅持は両立するか等についても、議論する。	共同・集中
	Malay Language Communication II	本授業では、コミュニケーションツールとしてのマレー語を学ぶ。基礎的な発音、文法、教、挨拶、日常会話で用いられる事例等を学ぶ。とくに、大学での授業、インターンシップ、目的地までの道順の訪ね方・教え方、買い物風景、スポーツ観戦・スポーツ体験、公共交通機関の利用、音楽鑑賞、パーティへの出席、冠婚葬祭への出席、簡単なスピーチ、友人との日常会話等、身近な会話やコミュニケーションの場を教材とし、実際の演習を交えて学ぶ。	共同・集中
	National Language A	本授業においては、マレー語を読む、書く、聞く、話すという4つの技能について学ぶ。基礎的文法、会話、短文作文、ヒアリングと概要記述等の演習を通じ、マレー語によるコミュニケーション能力を総合的に涵養する。講義、教科書購読、作文執筆と添削、様々な題材のヒアリング演習、日常様々な場面における会話演習等を通じ、マレー語に関する4つの技能を向上させる。また多様な文化、考え方が共生する社会において必要なコミュニケーションを身につけるという観点から、互いを尊重するコミュニケーションのあり方を学ぶ。	共同・集中
専門基礎科目	統計学基礎	データサイエンスの基本となる、確率論および記述統計学の基礎を学ぶ。初学者を対象とし、数学の詳細には立ち入らず、実際の統計への応用に役立つ事柄を演習を交えて学ぶ。講義は前半の確率論、後半の記述統計学からなる。確率論は統計学の基礎を成している。ここでは確率変数、モーメント、確率分布の概念を学び、統計学で用いられる概念に十分精通できることを目指す。記述統計学はデータサイエンスの基礎をなす。ここでは中心極限定理に立脚し、統計量の標本分布に関して主に学ぶ。これらを応用し、統計学的推定や検定、また回帰分析などの実践的な統計の初歩を習得する。	共同
	実践統計	現代の自然科学と人文社会科学の共通の基礎となっている統計学について、大枠となる概念を獲得する。無作為抽出や実験計画等、データ取得の設計に関わる内容から始め、統計モデルやパラメータの考え方、仮説検定において用いられる各種の概念、さらに統計学の発展として捉えられる機械学習について、全体像を理解することを目指す。それぞれの手法がどのような条件のもとで使用できるのか、どのような前提が仮定されているのかといった注意点を学ぶことで、科学的分析を行う上で必要となる基本的な統計リテラシーを身につけることを目的とする。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(学際サイエンス・デザイン専門学群)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本語と学問I	大学の授業に必要な日本語能力を継続的に発展させるために、より高度な言語知識（語彙・文法）の習得を図る。自然科学、人文社会科学の専門科目に関する読み物を通して、幅広い教養を身につけるとともに、物事を論理的に分析したり、考察したりできる力を養う。読み物で提示されたテーマを中心に、必要な情報を収集したり、考察をまとめたりして、発表、議論を行う。また、小論文の構成を理解し、基本的なレポートが作成できるようにする。	共同
	日本語と学問II	「日本語と学問I」に引き続き、大学の授業に必要な日本語能力を継続的に発展させるために、より高度な言語知識（語彙・文法）の習得を図る。自然科学、人文社会科学の専門科目に関する読み物を通して、幅広い教養を身につけるとともに、物事を論理的に分析したり、考察したりできる力を養う。読み物で提示されたテーマを中心に、必要な情報を収集したり、考察をまとめたりして、発表、議論を行う。また、小論文の構成を理解し、基本的なレポートが作成できるようにする。	共同
	自然科学基礎I	地球規模課題を解決するために必要な地球環境、生命科学、物質科学、システム工学に関する基礎知識、考え方、技術等を教授する。地球規模課題の根幹たる地球環境を理解する上での基礎事項、人間を含む生命の起源と進化に関わる基礎事項、地球上の様々な物質の動態を理解・解析する上での基礎事項、これらの基礎事項を人間活動に適用し課題解決に繋げる上で必要なシステム構築の基礎事項を、我々の身の回りの様々な現象、事象、課題等と結びつけて解説する。単なる基礎情報や理論の表層的説明ではなく、なぜそのような考え方や知識が我々の生存をより良くするために必要なのかを、履修生が常に意識できるように、講義する。 (オムニバス・共同方式/全20回/科目責任者：① 辻村 真貴) (1～5回：① 辻村 真貴、③ 鈴木 石根、27 釜江 陽一、28 高橋 純子) (共同) 地球環境に関わる基礎事項の講義 (6～10回：⑤ 西村 健、31 渡邊 幸秀、③ 鈴木 石根) (共同) 分子細胞生物学の基礎事項の講義 (11回～15回：⑫ 山田 洋一、⑦ 望山 洋、⑩ 善甫 啓一) (共同) マテリアルサイエンス、ニュートン力学の基礎事項の講義 (16回～20回：⑦ 望山 洋、④ 手塚 太郎、⑩ 善甫 啓一、⑫ 山田 洋一) (共同) AI・ロボティクスの基礎事項の講義	オムニバス方式 共同
	自然科学基礎II	地球規模課題を解決するために必要不可欠な地球環境と資源、生命科学の工学的展開、電磁気・量子力学、運動学に関する基礎知識、考え方、技術等を教授する。地球規模課題の相当部分を占める資源問題を理解する上での基礎事項、汚染、ウイルス等、人間の生存に関わる問題解決に必須な基礎事項、様々な機械等に必須技術である電場・磁場の動態を理解・解析する上での基礎事項、さらに地球上の構成物質における動態を理解する上で必須である運動学の基礎事項を様々な現象、事象、課題等と結びつけて解説する。基礎情報や理論の説明だけではなく、なぜそのような考え方や知識が我々の生存をより良くするために必要なのかを、履修生が常に意識できるように、講義する。 (オムニバス・共同方式/全20回/科目責任者：1 辻村 真貴) (1～5回：① 辻村 真貴、③ 鈴木 石根、17 廣田 充、15 内海 真生、26 大森 裕子) (共同) 地球環境と各種の資源に関する講義 (6～10回：⑤ 西村 健、③ 鈴木 石根、16 丹羽 隆介) (共同) 代謝工学、遺伝学、微生物学、細胞工学に関する講義 (11回～15回：⑫ 山田 洋一、⑦ 望山 洋、⑩ 善甫 啓一) (共同) 電磁気学、量子力学に関する講義 (16回～20回：⑦ 望山 洋、④ 手塚 太郎、⑩ 善甫 啓一、⑫ 山田 洋一) (共同) AI・ロボティクスに関わる物体の動態に関する講義	オムニバス方式 共同

授 業 科 目 の 概 要			
(学際サイエンス・デザイン専門学群)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人文社会科学基礎I	<p>人文科学・社会科学のさまざまな研究分野の紹介および概説を通して、人文科学・社会科学的な視点の基礎を身につけ、地球規模課題を理解し、解決策を考えるために必要となる広い視野と「社会や文化を見る目」を養う。授業は講義と演習の併用とし、週前半の講義で学んだ知識を後半のディスカッションで深め、定着させていく。また、履修学生はそれぞれひとつの研究トピックを選択し、学んだ学問手法を用いて分析・考察を行い、成果レポートにまとめていく。前期は言語と文化に関わる学問について学んでいく。</p> <p>(オムニバス方式、一部共同/全15週/科目責任者：⑥ 平石 典子)</p> <p>⑥ 平石 典子・⑪ 稗田 奈津江・⑭ 渡部 宏樹・21 澤田 浩子・⑲ 福澤 利江子/3週) (共同)</p> <p>イントロダクション、まとめ、成果発表について、講義および演習における学生指導を共同で行う。</p> <p>⑪ 稗田 奈津江/2週)</p> <p>言語とコミュニケーションを異文化コミュニケーション学から考察する講義を行い、演習で基礎知識の定着とその運用を指導する。</p> <p>⑲ 福澤 利江子/2週)</p> <p>言語とコミュニケーションを翻訳学から考察する講義を行い、演習で基礎知識の定着とその運用を指導する。</p> <p>21 澤田 浩子/2週)</p> <p>言語とコミュニケーションを言語学から考察する講義を行い、演習で基礎知識の定着とその運用を指導する。</p> <p>⑥ 平石 典子/3週)</p> <p>芸術と文化を文学から考察する講義を行い、演習で基礎知識の定着とその運用を指導する。</p> <p>⑭ 渡部 宏樹/3週)</p> <p>芸術と文化を映画メディア学やカルチュラル・スタディーズから考察する講義を行い、演習で基礎知識の定着とその運用を指導する。</p>	オムニバス方式 共同(一部) 講義 30時間 演習 30時間
	人文社会科学基礎II	<p>人文科学・社会科学のさまざまな研究分野の紹介および概説を通して、人文科学・社会科学的な視点の基礎を身につけ、地球規模課題を理解し、解決策を考えるために必要となる広い視野と「社会や文化を見る目」を養う。授業は講義と演習の併用とし、週前半の講義で学んだ知識を後半のディスカッションで深め、定着させていく。また、履修学生はそれぞれひとつの研究トピックを選択し、学んだ学問手法を用いて分析・考察を行い、成果レポートにまとめていく。後期は社会に関わる学問についてさまざまな視点から学んでいく。</p> <p>(オムニバス方式・一部共同/全15週/科目責任者：⑨ 上田 孝典)</p> <p>⑨ 上田 孝典・⑧ レスリー タック川崎・⑬ 醍醐 笑部・⑮ 宮本 昌子・⑯ 大宮 朋子・⑰ 伊藤 智子/3週) (共同)</p> <p>オリエンテーションおよびまとめと成果発表</p> <p>⑨ 上田 孝典/2週)</p> <p>フォーマル教育、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育の違いについて理解し、生涯教育体系のあり方について学ぶ。</p> <p>⑯ 大宮 朋子/2週)</p> <p>健康をめぐって社会的要因や社会的格差、公衆衛生など社会学や保健医療分野からのアプローチについて学ぶ。</p> <p>⑮ 宮本 昌子/2週)</p> <p>社会的障壁を取り除くための手段として、障害理解教育と啓発の重要性について学ぶ。</p> <p>⑧ レスリー タック川崎/2週)</p> <p>政治学入門。基本的な分野の紹介と政治学の研究方法を理解し、各政治制度の相違点・共通点を学ぶ。</p> <p>⑰ 伊藤 智子/2週)</p> <p>福祉の定義や意義、実例を学び、社会の中での福祉について理解する。</p> <p>⑬ 醍醐 笑部/2週)</p> <p>スポーツと社会的・国際的課題の関連を理解し、スポーツに対してより深い造形を持てるようになることを目的とする。</p>	オムニバス方式 共同(一部) 講義 30時間 演習 30時間
	データサイエンスサイエンスのための線形代数	<p>現象に対するもっとも単純で汎用性の高い近似のひとつである線形モデル、ならびにその数学的定式化である線形代数について、基本的演算から始め、座標系や線形変換の考え方、主成分分析や特異値分解等、多変量解析の基礎について学ぶ。統計処理や機械学習のソフトウェアにおいてデータ構造として頻出するベクトルや行列について、その幾何的な意味を理解しつつ、プログラムの構築に際して適切に利用できるようになることを目的とする。</p>	共同 講義 20時間 演習 10時間

授 業 科 目 の 概 要			
(学際サイエンス・デザイン専門学群)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	データサイエンスのための解析学	自然を理解する上でもっとも基本的な視点である微分と積分について、データ解析技術との関わりを踏まえつつ修得する。微分の応用としてのNewton法、積分の応用としての期待値計算を例として、プログラミングによる実装を交えながら学んでいく。特に平均や分散といった確率変数に関わる応用を題材とする。さらに、高次元における微分や積分の計算方法を習得することで、曲率や座標変換、ベクトル場といった幾何的な概念を理解し、最適化に利用できるようにする。	共同 講義 20時間 演習 10時間
	データサイエンスのためのシステム理論	現象の因果関係をモデル化して、その本質を理解するシステム理論の基礎（予測・制御・システム同定）を解説する。数学モデルに基づく予測や制御、さらにはそれらの計算について、プログラミング演習を取り入れつつ、説明する。また、データに基づいて数学モデルを構築するシステム同定の考え方や、種々の原理とデータを結びつけるために必要な離散化の概念についても解説する。本授業の学修によって、データサイエンスとシステム理論の深い関りを理解することができ、データから現象を捉え、活用する能力を養うことができる。	共同 講義 20時間 演習 10時間
専門科目	日本文化と社会の理解I	日本の伝統文化と現代文化を学ぶことで、日本文化独自の要素と言われることの多い「間」や「型」についての知識を深め、そのコミュニケーション上の意味を考える。茶道、芸能、武道、マンガなどについて、まずは文献講読とディスカッションによって基礎的知識と理解を得る。その後、ワークショップにおいて、日本文化の「間」や「型」を実際に体験する。そのうえで日本文化のコミュニケーションにおいて「間」や「型」がどのように機能しているかを考察し、さらに異質に見える他文化との比較を通じて日本文化の独自性は何かを追究する。	共同
	日本文化と社会の理解II	「日本文化と社会の理解I」で体験的に習得した日本文化の独自性を基盤に、マレーシアにおける日本人コミュニティでのフィールドワークを通じて、そのコミュニケーション上の意味を考える。最初に講義形式でマレーシアにおける日本人コミュニティについて理解し、フィールドワーク先を決定する。最後にフィールドワークの記録を基に体験発表をして、振り返りを行う。フィールドワークは、在馬日本人会や日本人学校、日系企業等を予定している。	共同
	日本文化コミュニケーションI	「日本語と学問」までで身につけた日本語能力を、「人文社会科学通論」で身につける知識とすり合わせ、学術的な日本語運用能力を実践的に身につける。最初の7週間は教員が日本の中で周縁化されている人々について視聴覚教材を交えて解説する。次の3週は受講者がそれぞれ、自分が選んだ日本のマイノリティーというテーマで調査をし中間発表をする。最後の5週は日本の学生とオンラインで繋ぎ、中間発表で準備した内容を日本の学生に向けて発表し、その後議論を行う。	共同 講義 21時間 演習 24時間
	日本文化コミュニケーションII	「日本語と学問」までで身につけた日本語能力を、「人文社会科学通論」で身につける知識とすり合わせ、学術的な日本語運用能力を実践的に身につける。授業は、「現在の教育課題」に関するテーマについて、文献の閲読や日本人へのインタビュー調査を通して日本の社会や文化に関する知識を習得する。インタビューにあたっては、事前にテーマに関する予備知識を習得し、インタビューの内容を検討し、実際にインタビューをしながら調査結果をまとめる。これら一連の作業をグループワークを通じて行い、実践的な日本語が使えるようにする。最後に、それぞれのグループの成果発表会を行うことで、日本語でのプレゼンテーションおよびディスカッションスキルを向上させる。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(学際サイエンス・デザイン専門学群)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	自然科学通論I	<p>環境問題の根幹とも言える汚染、都市問題の基礎事項、健康に係る地球規模課題の重要項目、課題解決に必須である固体物理学・化学分野における半導体、絶縁体等の技術の知識、さらに問題解決に必須である映像・音声による情報伝達技術の基礎事項を教授する。汚染・都市問題は環境科学の出発点でありその基礎を理解することは、地球規模課題解決には必須である。さらに、汚染・都市問題は人間の健康と繋がっており、感染症等を理解することは環境問題解決にとっても重要である。さらに、こうした諸問題解決において、各種技術を適用する上で必須の知識である固体物理学・化学を半導体・絶縁体等の技術面から解説し、加えて情報伝達の基礎である画像、映像、音声伝達の技術を教授することにより、課題解決に向けた能力涵養が進展する。本授業で身につけた知識、考え方は、時事課題解決法提案演習I・IIにおいて適用される。</p> <p>(オムニバス・共同方式/全20回/科目責任者：1 辻村 真貴) (1～5回：① 辻村 真貴、③ 鈴木 石根、20 甲斐田 直子、23 水野谷 剛、28 高橋 純子) (共同) 環境汚染、都市環境問題に関する講義 (6～10回：⑤ 西村 健、31 渡邊 幸秀、⑯ 大宮 朋子、⑳ 伊藤 智子、㉑ 福澤 利江子) (共同) ライフサイエンスに関する講義 (11回～15回：⑫ 山田 洋一、⑦ 望山 洋、⑩ 善甫 啓一) (共同) 固体物理学、固体化学に関する講義 (16回～20回：⑦ 望山 洋、④ 手塚 太郎、⑩ 善甫 啓一、⑫ 山田 洋一) (共同) 画像処理、音声情報処理に関する講義</p>	オムニバス方式 共同
	自然科学通論II	<p>現在から近未来における最大の地球規模課題である気候変動下での災害激甚化、気候変動適応に関し動態、予測、対策、施策等の知識、技術、これらに加え、human well beingの実現にも不可欠な生活習慣病、再生医療等の知識、技術、さらにこうした課題解決の技術を支える、エネルギー、マテリアルインフォマティクス等のgreen technology、ロボット技術について教授する。気候変動に係る課題は、多くの地球規模課題に影響を及ぼしており、その環境下で我々がいかにhuman well beingを実現するかは、人類が希求すべき最大の課題と言って良い。その課題へのアクセスとして、生活習慣病、神経、再生医療等のテーマがあるが、それらを理解するだけではなく、各種のgreen technologyにより解決または適応し、そして各種の媒体により情報共有するという道筋が、本授業により示される。</p> <p>(オムニバス・共同方式/全20回/科目責任者：1 辻村 真貴) (1～5回：① 辻村 真貴、③ 鈴木 石根、23 水野谷 剛) (共同) 気候変動適応、持続可能社会に向けた課題に関する講義 (6～10回：⑤ 西村 健、③ 鈴木 石根、16 丹羽 隆介) (共同) ライフサイエンスに関する講義 (11回～15回：⑫ 山田 洋一、⑦ 望山 洋、⑩ 善甫 啓一) (共同) グリーンテックに関する講義 (16回～20回：⑦ 望山 洋、④ 手塚 太郎、⑩ 善甫 啓一、⑫ 山田 洋一) (共同) 画像認識、ロボット制御、システムインテグレーションに関する講義</p>	オムニバス方式 共同

授 業 科 目 の 概 要			
(学際サイエンス・デザイン専門学群)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人文社会科学通論I	<p>人文社会科学基礎Iで扱った学問分野について、より深い理論的理解と運用手法を身につけ、こうした学問分野の実践的なアプローチが問題解決にどのように役立てられるかについて考えていく。</p> <p>授業は講義と演習の併用とし、週前半の講義で学んだ知識を後半のディスカッションで深め、定着させていく。また、履修学生はそれぞれひとつの研究トピックを選択し、学んだ学問手法を用いてケーススタディを行う。その成果を口頭発表するとともに、アカデミック・ペーパーとしてまとめる。</p> <p>(オムニバス方式、一部共同/全15週/科目責任者：⑥ 平石 典子) ⑥ 平石 典子・⑪ 稗田 奈津江・⑭ 渡部 宏樹/3週) (共同) イントロダクション、ケーススタディ発表について、講義及び学生指導を共同で行う。 ⑪ 稗田 奈津江/4週) 異文化コミュニケーション研究における理論の紹介とその応用についての講義を行い、演習でその運用と具体例に即した分析・考察方法を指導する。 ⑥ 平石 典子/4週) 比較文学研究におけるジェンダー理論、ポスト・コロニアル理論、翻訳理論の紹介とその応用についての講義を行い、演習でその運用と具体例に即した分析・考察方法を指導する。 ⑭ 渡部 宏樹/4週) 映画メディア学における理論の紹介とその応用についての講義を行い、演習でその運用と具体例に即した分析・考察方法を指導する。</p>	オムニバス方式 共同(一部) 講義 26時間 演習 34時間
	人文社会科学通論II	<p>人文社会科学基礎I・IIで扱った学問分野について、より深い理論的理解と運用手法を身につけ、こうした学問分野の実践的なアプローチが問題解決にどのように役立てられるかについて考えていく。</p> <p>授業は講義と演習の併用とし、週前半の講義で学んだ知識を後半のディスカッションで深め、定着させていく。また、履修学生はそれぞれひとつの研究トピックを選択し、学んだ学問手法を用いてケーススタディを行う。その成果を口頭発表するとともに、アカデミックペーパーとしてまとめる。</p> <p>(オムニバス方式・一部共同/全15週/科目責任者：⑧ レスリー タック川崎) ⑧ レスリー タック川崎・⑬ 醍醐 笑部/4週) (共同) イントロダクション、ケーススタディ発表、およびまとめ ⑧ レスリー タック川崎/4週) 定性・定量調査方法の入門、インタビュー方法、調査と質問の作り方、データ分析方法入門 ⑩ 大宮 朋子/1週) 地球規模課題の解決に資する人材育成のための重要分野である健康医療に関する理解を深める。 ⑮ 宮本 昌子/1週) 地球規模課題の解決に資する人材育成のための重要分野である障害科学に関する理解を深める。 ⑱ 伊藤 智子/1週) 地球規模課題の解決に資する人材育成のための重要分野である保健福祉に関する理解を深める。 ⑬ 醍醐 笑部/4週) スポーツを含む余暇活動に関連するデータと組織に着目して、経営と経営戦略に関する理解を深める。</p>	オムニバス方式 共同(一部) 講義 22時間 演習 38時間

授 業 科 目 の 概 要			
(学際サイエンス・デザイン専門学群)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Problem Based Learning	時事課題論考演習I	<p>授業の前半では、身の周りの疑問や困りごとを、データを基盤に解決するシステム構築を考究する。身近な問題を出発点とし、それを題材に、課題を設定するにはどのようなデータや資料が必要なのかを学ぶ。その上で、実際にデータや資料を収集する試行を行う。また可能な範囲で、1次データの取得も試みる。そうした取り組みを経て、課題の解決に向けたシステムのデザインを行い、その試行錯誤の過程においてデザイン思考の工程を学ぶ。(※1)</p> <p>授業の後半では、コミックコンテンツ、文学テキストを取り上げ、日本文化・社会の特徴、問題点を理解する。日本を含むアジア域において、人気の高い日本のコミックコンテンツを取りあげ、その中で扱われている日本の習慣、日本文化等について、課題の抽出を行い、課題解決に向けた方策を検討する。また様々な文学テキストに含まれる表現や記述を通じ、比較文学的な分析を試みる。(※2)</p> <p>(共同方式；科目責任者：① 辻村 真貴)</p> <p>① 辻村 真貴：前半では身の回りや様々なコンテンツに現れる自然現象や環境に関する課題について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。後半では、様々なコンテンツに現れる自然現象について、自然科学的なデータとして扱う場合の考究法を指導する。)</p> <p>② 工藤 重忠：前半では身の回りや様々なコンテンツに現れる健康や人の動きに関する課題について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。後半では、様々なコンテンツに現れる身体運動の記述をデータ化し考究する方法を指導する。)</p> <p>③ 鈴木 石根：主に前半で、身の回りや様々なコンテンツに現れる生き物や環境に関する課題について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。)</p> <p>④ 手塚 太郎：前半では、身の回りや様々なコンテンツに現れる課題について、データの使い方、データのまとめ方、データの考究法を指導する。後半では、様々なコンテンツに現れる表現や記載のデータをハンドリングする方法や考え方を指導する。)</p> <p>⑤ 西村 健：主に前半で、身の回りや様々なコンテンツに現れる健康や生命等の課題について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。)</p> <p>⑥ 平石 典子 ※2；科目後半責任者：主に後半で、身の回りや様々なコンテンツに現れる文化、社会に関わる課題について、解釈・説明の仕方、資料の読み方、考究法を指導する。)</p> <p>⑦ 望山 洋 ※1；科目前半責任者：前半では、身の回りや様々なコンテンツに現れる課題について、データの使い方、データのまとめ方、データの考究法を指導する。後半では、様々なコンテンツに現れる表現や記載のデータをハンドリングする方法や考え方を指導する。)</p> <p>⑧ レスリー タック川崎：主に後半で身の回りや様々なコンテンツに現れる文化、社会に関わる課題について、解釈・説明の仕方、資料の読み方、考究法を指導する。)</p> <p>⑨ 上田 孝典：主に後半で身の回りや様々な現れる文化、社会教育に関わる課題について、解釈・説明の仕方、資料の読み方、考究法を指導する。)</p> <p>⑩ 善甫 啓一 ※1；科目前半責任者：前半では、身の回りや様々なコンテンツに現れる課題について、データの使い方、データのまとめ方、データの考究法を指導する。後半では、様々なコンテンツに現れる表現や記載のデータをハンドリングする方法や考え方を指導する。)</p> <p>⑪ 稗田 奈津江：主に後半で身の回りや様々なコンテンツに現れる文化、社会に関わる課題について、解釈・説明の仕方、資料の読み方、考究法を指導する。)</p> <p>⑫ 山田 洋一：前半では、身の回りや様々なコンテンツに現れる自然現象や物理現象に関する課題について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。後半では、様々なコンテンツに現れる表現や記載のデータをハンドリングする方法や考え方を指導する。)</p> <p>⑬ 醍醐 笑部：主に後半では、身の回りや様々なコンテンツに現れる健康や人の動き・表現に関する課題について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。)</p> <p>⑭ 渡部 宏樹 ※2；科目後半責任者：主に後半で身の回りや様々なコンテンツに現れる文化、社会に関わる課題について、解釈・説明の仕方、資料の読み方、考究法を指導する。)</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(学際サイエンス・デザイン専門学群)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	時事課題論考演習II	<p>授業の前半では、日常生活における生活リズムや身体活動量を記録するとともに、ライフスタイルの乱れがもたらす問題に関し既存資料を収集することにより、自身に合った健幸で持続可能なライフスタイルをデザインする。各自の日常生活自体を題材とし、歩数など日常の健康状況をモニタリングすることで、1次データを取得し、その統計的な解析を行う。さらに、個人のデータをまとめ集団データにした際にみえてくる事実を検討し、データサイエンスの重要性も理解する。</p> <p>(※1)</p> <p>授業の後半では、教育の観点から“民主主義”を取り上げ、本課題に関する各国の教科書比較や教育内容の比較を通じて、問題点の抽出を行うとともに、解決すべき課題を明確化する。その上で成果物として、中等教育において使用する民主主義に関する副読本を作成する。こうした取り組みを通じ、単に問題点を指摘するのみならず、具体的に解決に資する成果を得ることの重要性を学ぶ。(※2)</p> <p>(共同方式；科目責任者：①辻村 真貴)</p> <p>① 辻村 真貴：前半ではライフスタイルに関する記録と自然環境との関係について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。後半では教育と地域の環境との関係について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。)</p> <p>② 工藤 重忠 ※1；科目前半責任者：主に前半で日常生活における身体活動量の記録方法、データ整理法、ライフスタイルのデザイン方法を指導する。)</p> <p>③ 鈴木 石根：前半ではライフスタイルに関する記録と自然環境との関係について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。後半では教育におけるSDGsの役割と反映方法について指導する。)</p> <p>④ 手塚 太郎：前半ではライフスタイルに関する記録と自然環境との関係について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。後半では教育と地域の環境との関係について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。)</p> <p>⑤ 西村 健：主に前半で健康やライフスタイルの観測結果について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。)</p> <p>⑥ 平石 典子：主に後半で人材育成、教育等について、資料の読み方、考究法を指導する。)</p> <p>⑦ 望山 洋：前半ではライフスタイルに関する記録と自然環境との関係について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。後半では教育と地域の環境との関係について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。)</p> <p>⑧ レスリー タック川崎：主に後半で人材育成、教育等について、資料の読み方、考究法を指導する。)</p> <p>⑨ 上田 孝典 ※2；科目後半責任者：主に後半で教育、民主主義に関わる基礎知識、資料の読み方、地域比較に関するデータの解析方法等を指導する。)</p> <p>⑩ 善甫 啓一：前半ではライフスタイルに関する記録と自然環境との関係について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。後半では教育と地域の環境との関係について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。)</p> <p>⑪ 稗田 奈津江 ※2；科目後半責任者：主に後半で教育、民主主義に関わる基礎知識、資料の読み方、地域比較に関するデータの解析方法等を指導する。)</p> <p>⑫ 山田 洋一：前半ではライフスタイルに関する記録と自然環境との関係について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。後半では教育と地域の環境との関係について、説明の仕方、データの使い方、考究法を指導する。)</p> <p>⑬ 醍醐 笑部 ※1；科目前半責任者：主に前半で日常生活における身体活動量の記録方法、データ整理法、ライフスタイルのデザイン方法を指導する。)</p> <p>⑭ 渡部 宏樹：主に後半で人材育成、教育等について、資料の読み方、考究法を指導する。)</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(学際サイエンス・デザイン専門学群)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	時事課題解析演習I	<p>自身の生存基盤である場を明確にすることを目的とし、自身の位置、場所と行為、経験に関する議論、フィールドワークと地図化、それらに基づくプレゼンテーションと討論を行い、居住空間の地図、理想的な居住空間のシステムを構築する。これにより履修生は、自身の立ち位置を俯瞰的な視点から記述し、その環境との関連性を客観的に可視化する能力を身につけることが可能になる。(※1)</p> <p>さらに、自身の立ち位置を資本主義経済の中に冷静に位置づけることを目的に、現代のポップカルチャー経験をテーマにしたFanzine（同人誌）を制作する。Fanzine作成のための、取材、コンテンツ収集、コンテンツの取捨選択・編集プロセスにより、履修生は、グローバルな視点により資本主義の中における商品価値の意義、表現の多様性を学ぶ。(※2)</p> <p>(共同方式；科目責任者：① 辻村 真貴)</p> <p>① 辻村 真貴 ※1；科目前半責任者：前半では地理・環境データの取得法、データ解析法、空間分布情報の論考法等を指導する。後半ではSDGsの観点から、映像コンテンツやポップカルチャー等の伝達機能に関するデータ解析を指導する。)</p> <p>③ 鈴木 石根：前半では地理・環境データの取得法、データ解析法、空間分布情報の論考法等を指導する。後半ではSDGsの観点から、映像コンテンツやポップカルチャー等の伝達機能に関するデータ解析を指導する。)</p> <p>⑤ 西村 健：主に前半で身の回りの環境データの取得法、生活圏の環境データ解釈の論考法等を指導する。)</p> <p>⑥ 平石 典子：主に後半で多様な文化のコンテンツを通じた表現、コミュニケーション、コンテンツ作成を通じた多文化共生の学修に関し指導する。)</p> <p>⑦ 望山 洋：前半では地理・環境データの取得法、データ解析法、空間分布情報の論考法等を指導する。後半ではSDGsの観点から、映像コンテンツやポップカルチャー等の伝達機能に関するデータ解析を指導する。)</p> <p>⑧ レスリー タック川崎 ※2；科目後半責任者：主に後半で多様な文化のコンテンツを通じた表現、コミュニケーション、コンテンツ作成を通じた多文化共生の学修に関し指導する。)</p> <p>⑨ 上田 孝典：主に後半で多様な文化のコンテンツを通じた表現、コミュニケーション、コンテンツ作成を通じた多文化共生の学修に関し指導する。)</p> <p>⑩ 善甫 啓一：前半では地理・環境データの取得法、データ解析法、空間分布情報の論考法等を指導する。後半ではSDGsの観点から、映像コンテンツやポップカルチャー等の伝達機能に関するデータ解析を指導する。)</p> <p>⑪ 稗田 奈津江：主に後半で多様な文化のコンテンツを通じた表現、コミュニケーション、コンテンツ作成を通じた多文化共生の学修に関し指導する。)</p> <p>⑫ 山田 洋一：前半では地理・環境データの取得法、データ解析法、空間分布情報の論考法等を指導する。後半ではSDGsの観点から、映像コンテンツやポップカルチャー等の伝達機能に関するデータ解析を指導する。)</p> <p>⑬ 醍醐 笑部：主に前半で身の回りの地理・環境データの取得法、生活圏の地理データ解釈の論考法等を指導する。)</p> <p>⑭ 渡部 宏樹 ※2；科目後半責任者：主に後半でFanzine（同人誌）の多文化共生、経済、環境における位置付けを教授し、コンテンツ作成のための取材、材料収集、編集等を指導する。)</p> <p>⑰ 山田 協太 ※1；科目前半責任者：フィールドワークと地図化の技術を教授し、それらに基づく居住空間の地図、理想的な居住空間のシステムを構築する上での考査法、表現法を指導する。)</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(学際サイエンス・デザイン専門学群)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	時事課題解析演習II	<p>本授業の前半では、地域による医療ニーズの違いを理解することを目的として、マレーシア国内の地域間の比較や、高齢化が進む日本との比較をはじめとした世界の各地域における医療ニーズの比較を通して、違いによって生じる課題を抽出し、課題解決に向けた医療体制の提案を行う。（※1）</p> <p>さらに後半では、多言語・多文化状況における教育課題を取り上げ、国境を超えた人の移動がより活発になる中で、ルーツによって格差の生じない公正な教育を普及させるために、文献等調査や教育機関・NPO等への視察・ヒアリング等を通じて課題を検討し、新たな教育デザインや言語サービスのあり方について提案を行う。（※2）</p> <p>（共同方式；科目責任者：① 辻村 真貴）</p> <p>① 辻村 真貴：前半では医療ニーズに関する地理・環境データの取得法、データ解析法、空間分布情報の論考法等を指導する。後半では多言語・多文化教育に関するデータの空間解析や地理学的解析法を指導する。）</p> <p>③ 鈴木 石根：主に前半では医療ニーズに関する環境データの取得法、データ解析法、SDGsの観点によるデータ解釈等について指導する。）</p> <p>⑤ 西村 健 ※1；科目 前半責任者：主に前半でマレーシア各地域・世界各国の医療ニーズ情報に関する基礎知見の教授、資料・データの収集法、地域間比較に関する解析法、課題解決に向けた医療体制実装に関する指導を行う。）</p> <p>⑥ 平石 典子 ※2；科目 後半責任者：主に後半で多言語・多文化状況における各種課題に関し、文献等調査法、データ解析法等を指導する。）</p> <p>⑦ 望山 洋：前半では医療ニーズに関する地理・環境データの取得法、データ解析法、空間分布情報の論考法等を指導する。後半では多言語・多文化教育に関するデータの空間解析や地理学的解析法を指導する。）</p> <p>⑧ レスリー タック川崎：主に後半で多言語・多文化状況における各種課題に関し、文献等調査法、データ解析法等を指導する。）</p> <p>⑩ 善甫 啓一：前半では医療ニーズに関する地理・環境データの取得法、データ解析法、空間分布情報の論考法等を指導する。後半では多言語・多文化教育に関するデータの空間解析や地理学的解析法を指導する。）</p> <p>⑪ 稗田 奈津江 ※2；科目 後半責任者：主に後半で多言語・多文化状況における各種課題に関し、文献等調査法、データ解析法等を指導する。）</p> <p>⑫ 山田 洋一：前半では医療ニーズに関する地理・環境データの取得法、データ解析法、空間分布情報の論考法等を指導する。後半では多言語・多文化教育に関するデータの空間解析や地理学的解析法を指導する。）</p> <p>⑬ 醍醐 笑部：主に前半で健康に関する地理・環境データの取得法、データ解析法等を指導する。）</p> <p>⑭ 渡部 宏樹：主に後半で多言語・多文化状況における各種課題に関し、文献等調査法、データ解析法等を指導する。）</p> <p>⑯ 大宮 朋子 ※1；科目 前半責任者：主に前半でマレーシア各地域・世界各国の医療ニーズ情報に関する基礎知見の教授、資料・データの収集法、地域間比較に関する解析法、課題解決に向けた医療体制実装に関する指導を行う。）</p> <p>⑰ 伊藤 智子：主に前半でマレーシア各地域・世界各国の医療ニーズ情報に関する基礎知見の教授、資料・データの収集法、地域間比較に関する解析法、課題解決に向けた医療体制実装に関する指導を行う。）</p> <p>⑱ 福澤 利江子：主に前半でマレーシア各地域・世界各国の医療ニーズ情報に関する基礎知見の教授、資料・データの収集法、地域間比較に関する解析法、課題解決に向けた医療体制実装に関する指導を行う。）</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(学際サイエンス・デザイン専門学群)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	時事課題解決法提案演習I	<p>SDGsと身の回りの課題に関し、課題を設定し、問題を理解し、課題を解決するためのシステムを提案、試行するまでを、一連のストーリーとして構築する。SDGsは、社会の様々なステークホルダーにおいて、活動の規範にもなりつつあり、多くの政府機関、団体、企業等において取り組み事例がある。本授業の前半では、こうした政府機関、団体、企業等の取り組みを実地において視察、ヒアリングするとともに、可能な範囲で参加し経験する。このことにより、既存のSDGs取り組みの成果と課題を自身の問題として考究することが可能になる。授業の後半では、新たなSDGs取り組みをビジネスモデルとして提案し、実装試行する。また、一連のチーム活動を、映像としてドキュメンタリーにまとめ、発表する。</p> <p>(共同方式；科目責任者：① 辻村 真貴)</p> <p>① 辻村 真貴：水資源等、環境問題にかかる諸課題について、基礎・応用知識の涵養、資料・データの紹介、データの解析法・課題解決システム構築等の指導を行う。</p> <p>② 工藤 重忠：健康、スポーツにかかる諸課題について、基礎・応用知識の涵養、資料・データの紹介、データの解析法・課題解決システム構築等の指導を行う。</p> <p>③ 鈴木 石根：生態系、生物資源、エネルギー等にかかる諸課題について、基礎・応用知識の涵養、資料・データの紹介、データの解析法・課題解決システム構築等の指導を行う。</p> <p>④ 手塚 太郎：情報、データ分析にかかる諸課題について、基礎・応用知識の涵養、資料・データの紹介、データの解析法・課題解決システム構築等の指導を行う。</p> <p>⑤ 西村 健：医療、健康等にかかる諸課題について、基礎・応用知識の涵養、資料・データの紹介、データの解析法・課題解決システム構築等の指導を行う。</p> <p>⑥ 平石 典子：多文化共生、比較文学等にかかる諸課題について、基礎・応用知識の涵養、資料・データの紹介、データの解析法・課題解決システム構築等の指導を行う。</p> <p>⑦ 望山 洋：システム工学、ロボティクス等にかかる諸課題について、基礎・応用知識の涵養、資料・データの紹介、データの解析法・課題解決システム構築等の指導を行う。</p> <p>⑧ レスリー タック川崎：インターネットに関わる様々な社会問題等について、基礎・応用知識の涵養、資料・データの紹介、データの解析法・課題解決システム構築等の指導を行う。</p> <p>⑨ 上田 孝典：社会教育等にかかる諸課題について、基礎・応用知識の涵養、資料・データの紹介、データの解析法・課題解決システム構築等の指導を行う。</p> <p>⑩ 善甫 啓一：音声ナビゲーション等にかかる諸課題について、基礎・応用知識の涵養、資料・データの紹介、データの解析法・課題解決システム構築等の指導を行う。</p> <p>⑪ 稗田 奈津江：日本語・日本文化にかかる諸課題について、基礎・応用知識の涵養、資料・データの紹介、データの解析法・課題解決システム構築等の指導を行う。</p> <p>⑫ 山田 洋一：エネルギー工学、グリーン工学等にかかる諸課題について、基礎・応用知識の涵養、資料・データの紹介、データの解析法・課題解決システム構築等の指導を行う。</p> <p>⑬ 醍醐 笑部：健康、スポーツ等にかかる諸課題について、基礎・応用知識の涵養、資料・データの紹介、データの解析法・課題解決システム構築等の指導を行う。</p> <p>⑭ 渡部 宏樹：映像コンテンツ等にかかる諸課題について、基礎・応用知識の涵養、資料・データの紹介、データの解析法・課題解決システム構築等の指導を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(学際サイエンス・デザイン専門学群)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	時事課題解決法提案演習II	<p>本授業では、これまでの時事課題論考演習I・II（1年次）、時事課題解析演習I・II（2年次）、時事課題解決法提案演習I（3年次）による学修成果を踏まえ、さらに4年次における卒業研究も念頭に、履修生は自主性に基づき研究活動を行う。</p> <p>興味のあるテーマに関する基礎文献、2次資料等の収集と分析、それらに基づく教員、学生とのブレインストーミングにおいて、課題の洗い出しを行う。さらに、文献等の検索、検討を行った上で、課題の絞り込みと、課題に関する主要な目的を設定する。設定した課題と目的に沿い、履修生は公開情報を含む2次資料に加え、課題の現場における1次データを収集する。この際、1次データは必ずしも定量的な測定、観測値に限らず、関係ステークホルダー等へのヒアリングも含む。得られた1次データ、2次資料の解析を経て、必要に応じ補足調査等を実施し、目的に対応する結果をまとめ、教員、履修生との議論に供する。なお、課題は卒業研究につながるものが理想的であるが、自主研究を通じて、卒業研究では異なる課題を取りあげることも十分にあり得る。</p> <p>（共同方式；科目責任者：① 辻村 真貴）</p> <p>① 辻村 真貴：水資源、水循環等にかかる諸課題について、既存最新知見の涵養、主要文献・資料の紹介、研究法・解析手法等の指導を行う。）</p> <p>② 工藤 重忠：健康、スポーツ科学にかかる諸課題について、既存最新知見の涵養、主要文献・資料の紹介、研究法・解析手法等の指導を行う。）</p> <p>③ 鈴木 石根：生物資源、藻類・エネルギー等にかかる諸課題について、既存最新知見の涵養、主要文献・資料の紹介、研究法・解析手法等の指導を行う。）</p> <p>④ 手塚 太郎：各種情報、データ分析法等にかかる諸課題について、既存最新知見の涵養、主要文献・資料の紹介、研究法・解析手法等の指導を行う。）</p> <p>⑤ 西村 健：医学、分子生物学等にかかる諸課題について、既存最新知見の涵養、主要文献・資料の紹介、研究法・解析手法等の指導を行う。）</p> <p>⑥ 平石 典子：多文化共生、比較文学等にかかる諸課題について、既存最新知見の涵養、主要文献・資料の紹介、研究法・解析手法等の指導を行う。）</p> <p>⑦ 望山 洋：システム工学、ロボティクス等にかかる諸課題について、既存最新知見の涵養、主要文献・資料の紹介、研究法・解析手法等の指導を行う。）</p> <p>⑧ レスリー タック川崎：アジア地域における様々な諸課題について、既存最新知見の涵養、主要文献・資料の紹介、研究法・解析手法等の指導を行う。）</p> <p>⑨ 上田 孝典：社会教育等にかかる諸課題について、既存最新知見の涵養、主要文献・資料の紹介、研究法・解析手法等の指導を行う。）</p> <p>⑩ 善甫 啓一：音声ナビゲーション等にかかる諸課題について、既存最新知見の涵養、主要文献・資料の紹介、研究法・解析手法等の指導を行う。）</p> <p>⑪ 稗田 奈津江：日本語・日本文化にかかる諸課題について、既存最新知見の涵養、主要文献・資料の紹介、研究法・解析手法等の指導を行う。）</p> <p>⑫ 山田 洋一：エネルギー工学、グリーン工学等にかかる諸課題について、既存最新知見の涵養、主要文献・資料の紹介、研究法・解析手法等の指導を行う。）</p> <p>⑬ 醍醐 笑部：健康、スポーツ科学等にかかる諸課題について、既存最新知見の涵養、主要文献・資料の紹介、研究法・解析手法等の指導を行う。）</p> <p>⑭ 渡部 宏樹：映像コンテンツ等にかかる諸課題について、既存最新知見の涵養、主要文献・資料の紹介、研究法・解析手法等の指導を行う。）</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(学際サイエンス・デザイン専門学群)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	卒業研究	時事課題解決法提案演習IIにおける自主研究等を基盤に、卒業研究において重要な、既存論文のレビューと、研究課題と目的の明確化（主たるQuestionの提示）、課題設定、研究手法の検討、研究フローの策定、期待される成果の予測等を行う能力を涵養する。重要文献の精読とそのサマリー作成を通じ、論理的思考力・表現力を涵養する。そして、調査、データ収集、試料収集、試料分析・解析、データ解釈、情報整理と既存研究による結果との比較等の研究プロセスにおいて、その概要をプレゼンテーションし、議論することを通じ、研究を進展させる。学生は、プレゼンテーションや指導教員との個別議論等を通じ、発表能力、コミュニケーション能力等を高めるとともに、研究内容を質的に高めて、卒業論文を完成させる。さらに可能な範囲で、研究成果を社会実装することを想定し、ビジネスモデルの提示、あるいは、想定される実装先への提案等を行い、卒業研究活動と社会とのつながりを説明する。	共同